

いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

1. 『原発のない世界を求める国際協議会』の提言

国際協議会参加者が纏め声明には以下の 8 項目の提言が含まれています。

- ① 東日本大震災がもたらしているさまざまな出来事を見つめ、証し続けること。
- ② 原発事故が起きれば、取り返しのつかない事態になることを認識し続けること。
- ③ 日本聖公会に「福島週間（仮称）」を創設し、“あの出来事”が語ることを聴き、学び、いのちを尊び、平和に生きる社会の実現へと歩み続けること。
- ④ 脱原発のための国内外のネットワークを強化・充実させること。
- ⑤ 未来を受け継ぐ次世代のために、原発による負の遺産をこれ以上ふやさないこと。
- ⑥ 各教区に自然エネルギーによるモデル教会をつくり、方向性を指し示すこと。
- ⑦ 各個教会が自然エネルギーへ転換する時の融資制度を、日本聖公会に設けること。
- ⑧ 宣教の 5 指標の一つである「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」に具体的に取り組むこと。

実行委員を含む 9 名が声明起草委員として選出され、ミランダさんはじめ講演を通して発信されたメッセージ、2 回のグループ討議の結果などに真剣に向き合い、声明として纏める作業を行いました。

作成された原案は全体会議で分かち合わせ、全ての参加者の意見を伺い、最終案をまとめ、5月31日に採択されました。その過程では特に、原発立地被災者の深く重たい思いを、私たち参加者がいかに声明に反映できるのかの議論に多くの時間が必要でした。

以下にそれぞれの項目についての簡単な解説を示します。

- ① 東日本大震災の被害は地震、津波、そして福島第一原発の爆発による放射能被曝と広範な地域の汚染など多様です。それぞれの実相を見つめ、それを証し続けましょう。
- ② 原発事故は他のどんな事故よりも重大な結果をもたらします。そして、どんなに対策を講じても完全に事故を無くすことは出来ません。その認識を持ち続けましょう。
- ③ 福島原発の爆発事故とその被災者の苦しみを長く記憶し、原発のない世界を求め続けるために「福島週間（仮称）」を創設し、共に祈り希望を持ち続けていきましょう。
- ④ 脱原発は小さなグループの努力だけで実現できることではありません。同じ思いを持つグループ、地域、国、更に世界で取り組んで初めて実現するものです。
- ⑤ 原発を運転すると、使用済核燃料が残されます。この最終処分方法すら定まっていない状況で原発を運転し続けることは倫理的に大きな問題があります。
- ⑥ 教会は、原発のない世界を率先して求めるものです。異常気象問題も深刻さを増しています。全ての人と共に生きてゆく為のクリーンな世界実現を目指します。教会はその方向性を示す責任があります。
- ⑦ 教会には新たな設備を導入するに必要な初期投資の為の資金が必要です。融資による初期投資を可能にし、自然エネルギー発電による利益によって回収する仕組みや可能性を示すことによって脱原発が促進されます。
- ⑧ これらの提言に応える努力は、「宣教の5指標」の5番目の指標にかなうものでしょう。希望をもって具体的に取り組んでゆきたいものです。



声明採択の後の閉会聖餐式